

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発 行

5年3月現在 回数 165名 238名 48名 (合計) (451)名	5年3月号(248号) 発行 根岸岳 編 集 中 村 岳
--	--

◎ 四月の行事予定

○関東地区選抜予選会

日時 4月25日(日)

場所 神田パンセホール

高齢者の扱いの改正

今までは八十才になりますと、会員登録をB会員(高齢者)として扱い、総本部会費(年間二千円)と許証料が免除されましたが、平成五年から改正され、八十才になっても、ひきつづきA会員(一般)として扱われることになりました。

但し、平成四年までにB会員となられた方は従来通りです。

又、神奈川県本部の審査の時、七十五才以上の方の書取免除、八十才以上の方の教本をみての審査方法は今迄通りです。

(総務部・許証部)

高段者審査会(皆伝以上)終る

2月7日(皆伝) 2月21日(九・十段・正師範)の審査があり全員合格。風邪大流行の折、無事終り、おめでとございました。

神奈川県文化振興大会に参加

去る二月十日(水)葉山町福祉文化会館大ホールに於て第23回右会が、関係者、文化行政担当者約350人が集い行われました。県下市区町村の芸術文化団体代表者が、当面する問題点を研究し、地方文化の向上と普及、並びに相互の交流を図る趣旨のもとに行われました。

毎年20有余の団体が順番で担当し、今年も葉山で行われることになり、アトラクションに、葉山町文化団体の中から、詩吟詩舞、民謡、コーラスの三部門が選ばれ参加しました。第一部開会式にはじまり、式典に於て各部門の文化運動功労者が表彰され、第二部記念講演で、葉山町長田中富先生による「御用邸と葉山」と題した講演がありました。そのあと第三部アトラクションに入り、詩吟、詩舞の部として、京愛会・紫舟会による、葉山八景・金州城下の作・本能寺・三浦新井城・大楠公の五題が、根岸岳萃先生他の先生方の伴吟で、ナレーション入りで発表されました。民謡とは又ひと味った格調の高さが評価され好評でした。

(岳愛記)

教場だより

なごやかな教室

一色 A 松崎 艶風

春立てば花とや見らん白雪の

かされる枝にうぐいすの鳴く

素性法師

すでに立春も過ぎたのに、春とは名のみで、道行く人はコートの際を立てたり、暖房の世話になっていきます。でも、草木は芽ぶきの仕度：日当りのよい庭の梅花はすでに満開、暖かな土手の下にも「春はここよ」とささやくように落の臺が顔を出しはじめました。

私達一色 A 支部一同も、熱心にお稽古にいらしてあります。遠方から来る人もいます。が、「この日が待遠しく楽しみなのよ」と、風雨もいとわず出席される方もあり、とても励みになります。毎週水・土に分けての稽古ですが、教室はいつもなごやかで、先生の熱心な指導や解説、又それに関連した色々のお話等も、楽しく、面白く、先生も「私達も皆さんと共に磨かせてもらおうのよ」と言われまですし、師第一丸となって勉強できるこの教室

を、いつまでも続けるためにも、両先生に元気でご指導いただきたいと一心から願っています。

今日も又楽しく集う教室に

豊かにひびく友の吟声

若い吟友に交って若さを吸収

堀内・F 斎藤 和風

月日の経つのは早いもので、私をはじめ矢嶋先生の吟を拝聴し感動、堀内 F 教室にお世話になり、十年余りが過ぎました。温暖な地、葉山で老後を送りたいと、若い頃からの念願が叶い、皆様のお仲間入りができ、良き先輩、良き後輩に巡り逢え、毎日が楽しく、倅せを感謝しております。

顧みれば、なんの趣味も無く、人生の大半を過ごしてきた、これからの日々をどう送ろうかと考えていたところを先生に詩吟を勧められ、不安でしたが、先生の指導、吟友のアドバイスありで、なんとか無事七段の許証を戴くことができました。

F 教室は、日・木・金曜日と、三教室に分れ、最高齢者小西勝風さんは81才になられますが、お元気で勉強熱心、若い人達に負けじ

と努力していられます。20代から80代、男性一人を交え総勢24名の大変バラエティーに富んだ教室です。

私は仕事柄、毎日お年寄に接しております関係上、若い方々の生活や話題に、なかなかついてゆけず途惑うことも多々ありましたが皆さんの中に入り、人生の勉強も共にさせていただき、若さを吸収し、若返りたいと思っています。

毎年森戸神社の奉納吟にはじまり、初吟会審査会、温習会、文化祭、納吟会、F 教室の一泊旅行と、色々な行事に参加させていただき、唯一の生甲斐となりました。これからも健康に留意し、吟道に精進してゆきたいと思っています。よろしく御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

挑戦することの大切さを痛感

唐木山 木内 江風

詩吟は、私には全く関係のない道だと思っておりましたが、寺脇うたの(宇岳)先生にお誘いを受け、あれから十年…、先生の熱心な御指導に感服しております。又年を重ねる毎に、根岸会長先生始め、諸先生の規律正し

い至誠には、深い尊敬の念でいっぱいです。

一昨年から昨年にかけて大病を患い、弱気になっていた私でしたが、秋に七段の審査を受けることになっていて、緊張の毎日でした。いよいよその日が来て、身の引き締る思いで審査を受け、やっと終りました。その時必々と感じたことは、人間何かに挑戦することの大切さを痛感いたしました。

これからも一層勉強し、吟の奥深さを求めがんばってゆきたいと思えます。先生、皆様よろしく御指導の程お願い致します。

熱心な指導に恵まれた教場

一色 B・長柄教場 今井草泉

私達長柄教場は、経験、識見共に豊かな、加藤岳相先生指導のもとに、平成二年三月からスタートしたばかりで、吟友も5名の小規模な教場ですが、それだけに熱の入った充実した二時間を吟道に打ち込むことができ、大変恵まれた教場と、自負しつつ練習に励んでおります。

ただ残念なことは、全員同時入会のため、先輩各位の吟を聴くことができないのですが先生の取計らいで、時には一色会館教場に合

流させて頂き、その難点をカバーしてしております。

練習は毎週火曜日午後一時三十分から行なっておりますが、先生からは何時も次の点について指導を受けております。

(1) 詩を理解する為に何回となく素読をし、詩心を理解すること。

(2) 一句一句、一語一語に全身全霊を傾けて吟ずること。

(3) 母音は口を大きく開いて、はっきり発声すること。

(4) 教本に忠実に吟ずること。

(5) 他人の吟を真面目に聴くこと。

等々を絶えず力説され、私達も、常にそれらの点を頭におき、練習に励んでおります。

さて、具体的な指導に入っては、先ず「吟道精神」の朗読から始まり吟詠に入ります。

特に始めての詩の時は、その時代背景、作者の経歴から人となり、次に語釈、通釈と、微に入り、細に亘って解説して下さいますので私達も知らず知らずのうちに、詩心の一端を窺い知ることが出来るようになります。楽しいうちに、心豊かさを覚えて参ります。次に吟法は、何回となく繰り返し、厳しさの中にも

心温まる指導を受け、一步でも目標に近づくべく、努力の連続を致しております。

私達も縁があり、碩心会に入会させて頂きましたからには、格調ある岳風会の心を心として、多くの先輩の方々、及び同志との親睦を深め、吟道を通じて、より充実したこれらの人生を送れるよう頑張りたいと思っております。

漢詩の参考文献をながめ歩きして

千葉 岳 関

裾はすねまで袖は腕

腰の剣は鉄も断つ

人がさわれば人を切り

馬がさわれば馬を切る

若さを誓う兵児仲間

北の客人来るならば

えんしよ(煙硝)さかなに(肴)に弾丸会釈

それを聞かずに来るならば

首に刀を引出もの

これは薩摩に伝わる有名な民謡である。何処かでこれに似た漢詩を見た方が多いと思う、そうです！頼山陽の「前兵児の謡」と題する

樂府体の詩と同じですよ。 (二巻70頁) 教本を開いて、この際詩文を合せて見て下さい。

この民謡は、本当にこの漢詩を和訳したように、立派にできているものだなーと、今の今まで考えていた私は、まさに浅学そのもの、誠に恥ずかしき限りであった。実は、山陽の詩文のもとになったのが、この民謡だったというわけである。それにしても、山陽の漢詩はすばらしい、さすがである (某専門家の言) 軒・腕・断・馬・車・社・酬・羞・頭と脚韻を合せ、三・四・五・七言をまじえて樂府のスタイルにまとめた。

さていつも漢詩文の通釈程度をよんで、分り切った顔をして、先に進むことばかり考えて、原詩の裏表の意義をも充分に弁えずに過して来た何年かに、いささかも悔いがなかったかどうか改めて反省している今日此の頃である。

樂府体三・四・五・七体の一例

衣至軒 袖至腕 腰間秋水鉄可断

人觸 斬人 馬觸 斬馬

十八 結交健兒社

北客能来何以酬 彈丸硝藥 是臆羞

客猶不屬餐 好以宝刀加渠頭

漢文の風景より (長江の流れに添って)

漢詩を勉強する時、広大な中国の地図に目をやり、詩に詠まれた名所を確認してから、勉強するのも又楽しいかも。

(長江)

中国第一の大河。揚子江という名稱は、下流の部分的呼稱。流域には古来、交通、産業文化の中心として、数多くの都市が発達した。

(江南の春景色)

長江下流の南の地方、江蘇省南部、安徽省、浙江省の一部の地を江南という、気候温暖で風光明媚な景勝地にも恵まれた豊かな穀倉地帯。

(廬山)

陶淵明が住んだり、李白・杜甫・白居易・蘇東坡なども訪れた名山。最高峰一四七四米。白居易の詩で名高い香炉峰は廬山の峰の一つ。

(黃鶴樓)

武漢にある名楼。呉の時代に建てられ、多くの詩人がその華麗さを詩に詠んだ。最近清代のものをモデルに再建され五層五十一米。

(三峽)

三峽とは四川省と湖北省の省境にある長江

の大峽谷・瞿塘峽・巫峽・西陵峽の総稱。古くから詩に詠まれ、航行の難所として有名。

(峨眉山)

成都の西南、中国仏教四大名山(普陀山・九華山・五台山・峨眉山)の一つ、主峰は三〇九九米、李白や蘇東坡などの詩人達に好まれた。

(支部長交替)

真澄支部長 (旧) 菊池祐風から

(新) 星野輝風に

(電話番号変更)

537 武藤千泉 (旧) 〇四六八七三三六一一八を

(新) 〇四六八七三三〇五九に

(入会)

663 占部優喜 (旧) 川崎市川崎区中瀬二一四二一五五〇三

(逗子A) (電) 〇四四二二六六一九六九八

664 菊池伸吉 鎌倉市笛田七七八一

(松和) (電) 〇四六七三二二七二四

665 山本幸雄 松戸市新松戸七二二二二

(松和) (西) パークハウスA一〇〇六

(電) 〇四七三三三三二一八

(退会)

401 鈴木要山 (唐木山)